溝のロキリスト教会　ウインディ・ニュース
第445号（2023年7月2日発行）

Windy News 7月号

標語：何事も恐れず、神の守りを信じて生きよう。
聖句「恐れるな。…わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。」
（イザヤ41章10節）

5月21日（日）墓前記念会

コロナで中断していた「墓前記念会」が再開されました。爽やかな初夏の空気の中、先に召された兄姉を偲んで、再会への期待を分かち合った幸いな時間となりました。

牧師のコラム

「右と左がわかるまで」

吉原博克　副牧師

京都教会より転任してきて三ヶ月が経った。関西生まれで関西育ちの夫婦が、本格的に関東に住み始めての三ヶ月だ。海外宣教師時代には三年に一度、三ヶ月間、一時帰国しての巡回宣教報告というものがあった。関東は北東教区と南西教区のいずれかが三週間ほど割り当てられ、駒込の本部宿泊棟に滞在しつつ諸教会を訪問する、という日々だった。

これが、地方の教区ではほぼ全教会を、毎日のように移動しつつ、訪問させていただけるのだが（それゆえ、北海道の北見教会から沖縄の南風原教会まで、百以上のAG教会を訪問させていただけたわけだが）、都会の教会は日曜礼拝に限る、祈祷会も開いていないものが多い、ということで、関東での一ヶ月は、家族三人で宣教報告DVDを焼いたり、写真アルバムを作ったり、ニュースレターを発送したりして過ごすのが常だった。

これは特に南西教区に顕著だった。北東教区は、訪問する機会が多かったり友人が多かった埼玉県を中心に、かなり交通網にも慣れ、土地勘も養われたのだが、南西教区とりわけ神奈川県は、海外伝道部員・部長時代の長かった藤村良彦先生の藤沢教会に頻繁にお邪魔した以外は、私たち家族にとって、ほぼほぼ未踏の地だったのだ。

そのため、溝の口教会にお世話になることが決まりつつある時期は、神奈川県？川崎市？溝の口？どないなとこやろ、という不安と好奇心の入り交じる日々だった。ネットの百科事典で高津区を調べたり、神奈川県の旅行ガイドを買ってみたり、大きな地図を広げてみたり、まるで海外宣教師として新たに派遣されるかのような準備を重ねてきた。

中でもありがたかったのが、ネットの動画投稿サイトの鉄道関連チャンネルだ。田園都市線、南武線などの動画を何本も観て、少しでも地名や風景に慣れようとしたが、これは、引っ越し準備のBGM代わりにもちょうどよかった。

そのような状態での着任だったが、仁井田先生ご夫妻や兄姉の皆さんに暖かく接していただけて、また、地元の生活情報などもいただけて、おかげさまで、この土地にもだいぶ慣れてきた。

夫婦でもようやく、カワサキ駅周辺とニコタマに上陸を果たしたばかり（ニコタマはいろいろ高くて逃げ帰ってきた）、まだまだシブヤもムサコもハマもカマクラも未踏のままだが、溝の口界隈では快適に暮らせるようになってきた。電車一本でスカイツリーなんてパラダイス！でも、寝過ごして動物公園まで行っちゃうのは怖い。湘南新宿・上野東京各ラインの違いもわかる。

千葉方面に行くにも川崎・品川乗換と

武蔵小杉乗換の二ルートがあるけど後者は恐ろしく歩かされる、など、初心者マークはそろそろ取れそうだ。ただ、駒込の本部以外に、和田佳士先生ご夫妻の八王子教会に何日も泊めていただくことが多かったことから、関東という土地を、駒込か八王子を基点にイメージする癖はなかなか抜けない。

振り返ると、駒込から藤沢に行く用があった際に、横須賀線の久里浜行きに乗っても藤沢は通るやろ、と思っていたのを思い出し、ぞっとする。人が生まれ、小中高と育ち、土地の人間として自然に育っていくというのは、実は大変なことなのだ。同じ人間同士、ことばの違いはなんとなくなじめても、人間関係と生活体験に根ざしたこの土地勘・地縁というものだけは、養われていくのに何年もの時間がかかる。溝の口教会に集められた皆さんも、主がこれまで、様々なことを通し、この土地での証し人として養ってこられたことには大きな意味がある。主が皆さんを、さらに豊かにお用いくださいますように。また、人口の流動の激しいこの関東のベッドタウンにあって、各地から新しく来られる方々がすぐになじめる溝の口教会であり続けますように。外国の方々や外国ルーツの子どもたちにも、優しい場になれればいいですね。

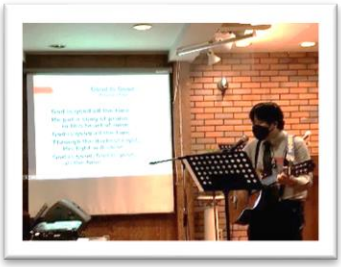
今後も引き続き、右も左も怪しいこの新入りメンバー夫婦（それに夏休みには秋田から帰省？してくる、帰国生ながらこれまた関西人気質の「第三文化」な娘）を生暖かく見守ってくださり、いろいろなお役立ち情報を教えてくださり、お仲間に加え、祈り励まして下さいますよう、よろしくお願いいたします。

■お知らせ♪

第三礼拝（英語礼拝）始まりました

吉原先生による、第三礼拝（English Services）が、5月7日からいよいよ始まりました。吉原先生が聖書のメッセージを日英交互に語ってくださるので、英語ネイティブの方だけでなく、英語学習者にはとてもピッタリなプログラムになっています。補助資料としてスクリーンに映し出されるスライドもあり、英語の聖書箇所やイラスト・写真を見ながら、聖書の理解が一層進みます。御言葉に関係する語源も知ることができ、知識欲を掻き立てられます。

「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。（ヨハネの福音書）」とある通り、神様がくださった御言葉と英語と日本語の、ことばの三位一体が体験できるぜいたくな礼拝のひと時。ぜひ参加ください。なおワーシップソングは英語です。



■墓前記念会

二〇一九年の五月十九日を最後にコロナ渦で実施できなかった「墓前での記念会」が、いよいよ復活しました。

陽光が強さを増しつつあるとはいえ、新緑の柔らかな青々しさが目に穏やかに映る今日、五月二十一日、三十名近い参加者が、教会墓地のある多摩丘陵に集いました。

数日前の雨が、天使のほほに一筋の跡を残し、まるで泣いていたかのよう。あまりの時間の経過への嘆きとも、御国での再会の喜びの現れともとれる天使の頬を伝う涙の跡。

少し気温が高めだったため、例の東屋は格好の日差し除けして4年振りの活躍を見せ、この記念会への神様の温かい祝福を示してくれた。

墓前での仁井田牧師のメッセージは、聖書のヘブル十二章から取り次がれました。御国に迎えられた信仰者の中に、あえて聖書は遊女ラハブの名を記します。地上に残された私たちは、先に召された兄姉が果たして無事に主の御許で安らいでいるかと心配することは不要で、私たちのあずかり知らない神様のお取り扱いにより、天に迎えられているとの確信を与えられ、自信の無い自らの素行ぶり？だとしても落胆せず希望を見出すことができました。

この地上ではせめて来年、またこの多摩の丘に無事に兄姉のお顔を見に来られますように。

（記：広報伝道部）

■ペンテコステ（聖霊降臨記念）

５月２８日の日曜日はペンテコステ（聖霊降臨）記念礼拝を行いました。

礼拝では、吉原先生が『聖霊のバプテスマ、神の力』と題して使徒の働きからお話をしてくださいました。

スライドを使ってわかりやすくお話してくださり、その中で、現代を生きる私たちの場合、イエス様を信じているならば聖霊はすでに与えられていること、異言は不思議な音のつながりとしてあらわれるが、怖がったり不審に思ったりしなくて大丈夫だと教えてくださいました。

最後に、異言で祈れることはただただ恵み、賜物であり、信仰の大小・優劣とは関係がないこと。イエス様がおっしゃったように、「力」（使徒１：８）で、信仰生活、奉仕、証の力であると語ってくださいました。

また、午後には３年ぶりの聖霊待望会があり、２０名以上の兄弟姉妹が参加し、共に祈る時間を持つことができました。今回は２人の姉妹が前に出て、聖霊を求めて祈りました。

始めにみんなで聖歌 562 番『約束のたまものをば』を賛美して、次に幸子先生が聖書を読み、短くお話をしてくださいました。

わたしは、あなたがたに言います。求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。

だれであっても、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。《略》あなたがたも、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さらないことがありましょう。（ルカ 11 章 9 節～13 節）

祈りの途中で幸子先生がお話されたことの一部をこちらで紹介いたします。

・聖霊を求めて祈るときに、神様が私たちの舌をとらえ、異言を語らせ、神様が一緒にいることを示してくださる。

・神様は私たちに聖霊の力を注ぎたくて注ぎたくてしょうがないというくらい、強く思ってくれている。それを私たちが喜んで受け取ることが大切。

・異言は人それぞれ。難しい言葉を話す人もいれば、歌になる人もいる。取り扱いが一人ひとり違うものなので、他の人と比べなくて良い。

・聖霊が与えられるときも人によって違うものなので、神様が「今日与えるよ」と教えてくれて与えられる人もいれば、家事をしているときに突然与えられる人もいる。どちらも神様からのプレゼントには変わりない。

みなさんが大切な人からもらったプレゼントを大切にするように、神様からもらった聖霊というプレゼントは大切にしてほしい。１回受けて終わりではなく、いつも求めて、神様とたくさんお話しましょう。

久しぶりの聖霊待望会、みんなで心を一つに祈ることができ、感謝でした！

（記：広報伝道部）

「コロナと起業と教会と」

「あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。」（詩篇 三十七篇5節）

「あなたのしようとすることを主にゆだねよ。そうすれば，あなたの計画はゆるがない。」（箴言 十六章3節）

ハレルヤ、主の御名を賛美します。コロナ禍と時期を同じくした私の体験をお証します。

最近、街中でもノーマスクが珍しくない雰囲気ですが、三年前の3月半ば、未知のウイルスに対する不安が色濃く世間を覆い始めていました。しかし個人的にはもうひとつ、未知の状況の渦中にありました。少し逆戻ること2月、なんと勤めていた会社から突然、「解散します」（！）という発表が出されたのです。会社代表の体調、メンタルが要因で、後継もいなかったことから、決算月の8月で「解散」という決定でした。いきなり意味不明な事態に放り込まれ、コロナという最大ニュースを脇に置いて、「さあ、どうしようか⁉」ということになりました。解散前の営業停止が5月ということで、あと3か月で何とかしないといけないことになり、通常の仕事をこなしながら、取引先各所への連絡を行うことになりました。いま抱えている仕事や、解散までと解散後にどうなるかということを取引先とも話して決め、自分の仕事・生活もどうしようか決めないといけないということです。「全然、あれこれ考えている余裕が無い！」そんな状況でした。抱えている仕事をとめるわけにいかないため、選択肢はひとつ。とりあえず自分で会社を作ろうと決め、3月から準備活動を始めました。もちろん、そのような経験も知識もありませんが、逆にそれが幸いして、思い切ったことができたのだと思います。とにかく直感で動くしかない状況に置かれ、5月までに株式会社を作って、6月から開業するというとても大雑把なプランで、必要な事柄を調べ始めました。メンバー集め、定款作成、法人登記、取引銀行との口座開設、事業計画作成と当座資金繰り、オフィスと設備と移転準備、税務署や年金保険関連の申請等々（書ききれません…）。怒涛の手続きを調べながら同時に進めるのは、今にして思えば素人ながら信じられないことをしていたと思います。誰か専門家に任せる時間もお金も伝手も無く、小刻みに予定を組み合わせ、ひとりで期日に間に合わせる調整が必要でした。

4月に入ると、世間的にもリモート化が進み、ビジネス街も閑散としていました。実際、会社の登記申請に必要な役所も法務局もたまにしか開いておらず、頼みの国のネットシステムは、意地悪なほど使いにくく、一部はバグだらけの代物でした。「わざと使えないように作られている…」と途中で気が付いて割り切り、妙に気分が楽になりました。（解決になっていませんが。。）

とにかくこれからコロナ禍で経済がどうなるかわからない時期に起業しようとしているため、役所でも銀行でも奇異な目で見られました。某有名銀行にいくと、単に口座を作るだけなのに断られたのはショックでした。資本金の入金ができなくなって先に進めなくなるので真摯に説明しましたが、偽装（オレオレ？）詐欺が増えているとのよくわからない理由の一点張りで、驚くことに個人口座の開設が許されませんでした。？？？で頭が

一杯になり、雨の中ひとりトボトボと、お祈りしながら近くの別の某メガバンクに向かいました。ところがそこでは何ら支障なく即座に口座を作ることができました。最初の銀行の対応は一体何だったのか、未だに謎です。しかし、このような理不尽で説明がつかない障害にいくつもぶつかり、社会全体の混乱ぶりを一層肌身に感じることとなりました。

実は面白いことにコロナ禍ならでは？の恩恵もありました。当時の記録ではコロナ禍の第一回緊急事態宣言が出て、教会の方もユーチューブ礼拝が4月の5日から始まりました。これまでと異なる撮影と編集とでペースをつかむまでは大変でしたが、仁井田先生の礼拝メッセージを撮影するために毎週、教会に通うことができました。これは今だから、はばかりなく言えるのですが。教会の兄姉が忍耐してリモート礼拝を余儀なくされている中、なんと私だけコロナ禍中ずっと会堂礼拝が守られることに気が付きました。しかも先取りでほぼ独占状態！

もちろん歓談はできませんが、幸子先生や音響の義幸兄がいて、何より教会ではイエス様が近しく感じられて、寂しくはありません。そして荻原姉が賛美パートを毎週作成して送ってくださり、編集作業に心強い味方を得ることができました。改めて感謝申します。

もう一つコロナ禍の副作用が、私の状況の助けとなりました。社会が急にストップしたため通常の仕事も止まり、だんだんと新会社準備の時間的な融通が利きやすくなりました。また、ほぼ全財産をつぎこんでから国民に給付金が配られ、暮らしも無事につながりました。

とはいえ、慣れないことで最後の最後まで綱渡りを経て苦しみましたが、ついに5月の、しかも半ばあきらめていた1日に間に合うよう前日ギリギリに手続きが完了し、計画通りに移転して6月から開業することができました。「奇跡を見た！」。正直、そんなふうに驚きました。このことを通してすべてのパズルのピースが神様の絶妙な守りで間に合わされ、みごとにはまっていく様を体験しました。まさしく、冒頭の聖書の御言葉通りでした。

最初の1年半近くはマンションの仮オフィスでしたがその後、良い場所が与えられてオフィスビルに移転することができました。オフィスには牧師夫妻を迎えて、会社の役員同席で開所の祝福を祈っていただくことができました。世間的には地鎮祭に「神主さん」が来るパターンですが、これにあらがってみたかったので、夢が叶いました。そんなこんなもコロナ禍中にて公言のタイミングを失いましたが、いきさつをご存じの兄姉の祈りにも支えられ続けています。

じつは初めの怒涛の3か月では終わらず、始業後もさらに怒涛の期間と奇跡は続いていくのですが、人生を通じて神様の祝福は尽きることがないため、中途での総括はなかなか簡単ではありません。

ただ、少なくとも会社設立は知識と経験において「裸一貫」で始めたので、ここは「とにかく明るく」宣言したいところです。（まだ間に合うでしょうか？）

「安心してください😊、履いていますよ。」―　「神の武具（エペソ6：13～）」とパンツ。

（記：桜井兄）

■吉原先生インタビュー２

４月からウインディチャペルに来てくださった吉原博克先生に、広報伝道部メンバーがインタビューをしてきました♪

今回は第２弾をお届けいたします！

・・・・・・・・・・・・・・・・・

🎤：フィリピンの思い出は？

👨：やっぱり楽しかった。現地語を勉強することも楽しかったですね。御言葉を語ってみんなと交わり持って、常に救われる、質問が出てくる、教会も育ってくる。神学校は神学校で世界中の 20 カ国ぐらいから常に集まってくるところだったので、充実した宣教師時代を過ごさせていただきました。14 年９ヶ月ぐらいの任期で特に始めの 10 年はすごく充実した働きをさせていただけたと思ってます。

🎤：フィリピンのご飯は？

👨：おいしいです。華僑の人が多いから、中華系の味付けで、ご飯もパサパサじゃなくて日本みたいにある程度モチモチしてるし、お醤油にお酢に生姜にニンニクみたいな味付けですから日本人の口に合うんですね。もっと南の方に行くとパクチーが出てきたり、魚醤が出てくるんですけどね。とても美味しかったです。

🎤：フィリピンにまた行きたいですか？

👨：先日も教区会で言われました(笑)行く機会があったら行ってもいいかなくらいです。でも今でも毎晩のようにフィリピンの夢を見ます。壮大な夢ですよ。教会関係のことや、悪路をすごい４ＷＤで川を渡ったり今までの理解を超えたりしていくようなことをしてたんです。向こうの人たちが恋しいと思うこともありますが、住みたいかと言われると・・・(笑)今は日本がいいです。

🎤：吉原先生は映画はお好きですか？

👨：最新の作品はフォローできてないんですが、好きな映画はたくさんあります。

📺『ア・フュー・グッドメン』

(A Few Good Men)

軍隊の中でいじめ事件みたいなのがあって、その真相を解明していくようなトムクルーズの映画です。

📺『**虚栄の篝火**（きょえいのかがりび）』

トムハンクスが出演していて、地味な映画なんですが、ある金持ちが貧しいスラム街の男の子を車でひいてしまう。その真相がだんだん明らかになっていくんだけどその流れの中でジャーナリズム、宗教、検察、政治といったアメリカ社会のダイナミズムみたいなのが絡み合って、エゴをむき出しで話が進んでいきます。

📺『戦火の勇気』

デンゼルワシントンとメグライアンが出ています。これは芥川龍之介の「藪の中」みたいな話で、一つの事件が起こるんですが、真相がどうかっていうのはその事件を巡る証言によって違うんです。それを主人公が突き止めていくんですけど、人間のエゴと本当の勇気・正義とは、ということを考えさせられる話です。

社会派の映画が好きですね。どれもおすすめなのでぜひ観てみてください。

🎤：今はやってないけど以前やっていて再開したいことなどありますか？

👨：いろいろなことが勉強するのが好きなので、ぼちぼち 50 の手習いで始めてみた

いなっていうのはあります。インターナショナルな感じでいろんな国の人と知り合えたらいいなと思いますね。あとは駅前にジムみたいなのもあったし、市民センターというのもあるみたいだし、またスイミングなどで運動不足解消したいなという野心もあります。

🎤：先生は何語が話せるのですか？

👧：喋れるかっていうとそんな大したことないですけど、色々な言葉は勉強してきました。日本語、英語、ギリシャ語、ヘブライ語、ラテン語、フランス語、ポルトガル語、中国語、台湾語、フィリピンのタガログ語、イロカノ語、カンカライ語、フィリピンで120ぐらい言葉があるんですよ。隣同士の言葉だからそんなに違いはないんですけど。ちょっと強めの方言みたいなそんな感じありますね。

🎤：溝の口教会の話がきたときは？

👧：※牧師コラムを参照※

南西教区の教会とあまりつながりがなかったので、最初はピンときませんでした。実は、最初に仁井田先生とのお話した時もちょっとお互いに難しいかな、祈っていきましょうみたいな感じだったんです。

で、一旦やっぱり話しに来てみようと思って6月ぐらいにお邪魔して先生方とお話する中でだんだん深まっていくものがあって、そこから開けていくものもあったんです。そういう意味では割と冷静に話を聞かせてもらって、ここまで導かれたと思っていて自分の中でもそれが大きいです。自分の好みだけで飛びついたのではなく、神様が働いてくださったのかなと思える余地があって嬉しいと思います。

それで来てみたら、同じ高槻教会にいらした姉妹や以前から知っていた方のご家族などもいてすごく嬉しかったです。

皆さんが祈ってくださってここに来ることができたと思っているので、本当にこの感謝に導かれたものを大切にしながらできることからさせていただけるよう、務めていければと願っております。

🎤：ご家族の反応は？

👧：最初は「関東かー、やっていけるかなー？」みたいな感じでした。けれど娘が志望校に合格して秋田に行くことになったんです。それで新宿からの夜行バスもあるので、秋田に近くなるっていうのは結構大きかった。あと幸子先生がお笑い好きと伺いまして、結構お話も合うんじゃないかと楽しみにしてきた部分があります(笑)

🎤：最後に一言お願いします。

👧：以前の教会では英語礼拝のみ担当だったので、溝の口教会ではそういう話ではなく本当に将来、牧師として来てくださいと言っていただけて嬉しく思います。英語礼拝はないとのことで聞いていましたが、話が進んだら、じゃあ英語の礼拝も始めてもらいますかとなり、私としては「おー！！」みたいな感じでした。

ありがたいというか、やることができて嬉しいです。本当に感謝で導きを感じています。どうか、みなさんこれからよろしくお願いします。

吉原先生ありがとうございました♪

■投稿

『最高の人生を築く最良のコミット』

こんにちは、あなたと同様に失敗する事なく豊かな人生を、楽々と無事に過ごしたいと考えております、健康長寿研究所所長の“あきら”です。

あなたは、『風を警戒する者は種をまかない、雲を観測する者は刈ることをしない。・・・。その様にあなたは、全ての事をなされる神のわざを知らない。』と聖書に書かれていると知っているのですが、実際には失敗は悪いことで無駄な事、恥ずかしい事と考えている自分の考えに問題があることに、気が付いていますか？

あなたは、失敗を恐れるあまりコミットすることを躊躇っていませんか？

いつものことですが、そんな日常の中で問題が起こり失敗も重なると、初期の考え方や方針が間違えていた、いやいや考えていた事・コミットした事が問題だったと気が付き、決定した事を嘆くことがありませんか？その結果、よりよい決断が出来ず、折角のチャンスを逃してしまうこともあります。

もともと『コミットする・決断する』ことと、その結果として起こることには何の関係もありません。結果に囚われること無く、恐れずにコミット・宣言すべきなのです。

さてここで、宣言するだけなら誰でも出来る、そんなことで問題が解決するなら、誰も困ったりしないと考えたあなた、それこそ問題の原因がそこにあります。

そんな私達の最良の武器は、新たに手に入れた気付きや思いを実行するか、出来るかにかかっているのです。

私は今まで、コミットしたこと・決断したことを実現するには、困難が予想されるため、多くの時間を行動に割く必要があり、実行するためには寝る間も惜しみ、挑戦し実行することが最大の解決方法だと思っていました。

まずは、寝ずに頑張るため、『24時間戦えますか？』と繋がり、四当五落と言われてきた古い時代の考えを正とし、寝る間を惜しんで戦い実行あるのみと、教育され励んで来てしまっていました。

しかし、その結果、寝る間を惜しみ、成果達成のため限界に挑戦してきた人生。（人には内緒に裏で無駄な時間を過ごし飲んだくれ愚痴った結果）今の自分を造りあげ理想（？）の私になったのです。（こんなはずでは。。。。）

実はスッキリした頭で、十分に検討し自らが下した決断に従い行うのに最も必要なものは、健康な体と心と、検討できる十分な時間だったのです。

効率良い行動は、十分な検討の上に達成でき、その決断は、澄み切った脳裏に宿るコミットであり、十分に整理のできた脳の働きによる行動の成果なのです。そして効率よく判断の出来る脳の働きを作るのは、理想的な睡眠なのです。

もしコミットした結果と違った現状を手に入れたとしても、成果として受け取ることが出来るマインドを、健康で健全な脳は与えてくれます。

その承認は、充分な睡眠をとった健全な脳に宿り、自ら手にする事が出来るのです。あなたも、ゆっくりと寝て、スッキリとした明朝の爽快な頭で、確認してみてください。

（記：中川彰兄）

7月・8月のイベント

7月　2日（日）１４：００～南地区壮年大会　　※オンライン開催
7月　9日（日）祈祷部プレイヤーウォーキング
7月２３日（日）１１：００～合同礼拝
　　１３：００～夏の特別講演会
　　「家族は大切だと分かっていても」堀川寛師
7月３０日（日）上半期役員部長会
8月　　デイキャンプ　★日程は別途お知らせ
8月２２日（火）～２４日（木）関東南西教区　ＣＡキャンプ
　　（静岡県御殿場市）

■編集後記

今年ももう半分終わりました。人は年齢を重ねると、１年がどんどん速く感じられるようになるという話を聞きますがアラフォーの私でも最近は１年間を振り返ると６か月くらいで終わってしまう感覚です。このままいくと７０歳くらいになったら１年が２か月くらいで終わってしまうのではと今からおびえています。

教会にいらっしゃる先輩方に、どんな感じか今度じっくり教えてもらって、今のうちから覚悟を決めておこうと思います。

（遠藤）

ウインディチャペル 溝の口キリスト教会
〒213-0033
神奈川県川崎市高津区下作延 7-11-12
TEL･FAX 044-811-3235
E-mail　mcc@windychapel.com
ホームページ　http://windychapel.com

5/14 母の日、6/18 父の日

今号は、いろいろ再開された集会その他をご案内することができました。主の教会が守られていることに感謝します。

5/28 聖霊待望会

6/11 聖餐式

この日は４年ぶりに聖餐式が持たれました。衛生的な個包装ウエハースとポーションタイプのぶどう液が用いられました。